

30-1055 W107-7

薬局薬剤師の参加の下での一般用医薬品販売実習の試み

○村上 美穂¹, 坂東 勉¹, 島森 美光¹, 早瀬 幸俊¹ (¹北海道薬大)

【目的】本学では、平成 16 年度から、4 年生全員が 4 週間の病院実習の後、必修科目として 2 週間の薬局実務実習を行うことになった。受け入れ薬局は、調剤を主たる業務としているが、一般用医薬品の販売も行っているところが多いため、薬局実務実習の準備として一般用医薬品販売実習を薬局薬剤師の参加の下に実施したので報告する。

【方法】実習は 5 日間を 1 サイクルとして 15~16 人ずつ行った。薬局薬剤師は 3、4 日目のロールプレイに非常勤教員として参加した。ロールプレイは日本薬剤師会発行の「対面話法例示集」及び「薬局・薬剤師接遇マニュアル」を参考にし、教員 2 名、TA の大学院生 1 名及び、非常勤教員の薬局薬剤師が患者役となり実施した。各ロールプレイ終了後、学生及び教員から評価を求めた。また、ロールプレイの様子はビデオに撮影し、接客時の態度の確認に用いた。実習終了後に実習に参加した薬局薬剤師及び学生に対し、アンケートを実施した。

【結果・考察】参加した薬局数は 9 施設で、薬剤師数は延べ 14 人(実数は 13 人)であった。1 回の実習では 1~2 人の薬剤師が参加した。学生からは、薬局薬剤師から積極的に学ぼうという姿勢が感じられ、実習後のアンケートでも、「現場の薬剤師からの話によって一般用医薬品販売業務に興味を持った」との回答が多かった。さらに薬局実務実習後のアンケートでも一般用医薬品販売業務実習、特にロールプレイが薬局実務実習で役立ったと答えている。参加した薬剤師からは「実務実習に役立てたい」等の意見が得られ、一般用医薬品販売実習に薬局薬剤師が参加することにより、学生の意欲が高まるとともに大学と薬局薬剤師との連携が深まり、互いにより有意義な実習または薬局実務実習の実施に繋がると思われる。